

腸管出血性大腸菌感染症の複数発生事例が確認されました

前橋市内の保育施設において令和4年7月11日（月）以降、腸管出血性大腸菌感染症に関連する患者が9人確認されました。

1 概要

- (1) 施設名称等 社会福祉法人しののめ会石倉保育園
(市内元総社地区所在「私立保育所」)
在籍数128人 職員数30名 (以下「施設」という。)
- (2) 原因菌 腸管出血性大腸菌O157 VT1VT2
- (3) 陽性者数 9人(7月27日現在) うち2名入院加療。

2 経過

- 7月11日（月）夜
 - ・ 県内保健福祉事務所より施設に通う園児1人が腸管出血性大腸菌に感染した旨の連絡を受ける。
- 7月12日（火）
 - ・ 当該園児に関わる施設の感染対策について調査
- 7月13日（水）
 - ・ 医療機関から2例目となる患者1人が入院している旨連絡を受け、患者調査開始
 - ・ 施設に対し、感染経路となりうるプール利用、イベントでの食事提供の中止等を口頭指導
 - ・ 施設の検査対象者の選定、発生状況の情報収集方法、立ち入り調査方針の決定
 - ・ 施設に出向き現場調査
 - ・ 市保健所にて検体の検査を開始
- 7月15日（金）～7月24日（日）
 - ・ 市保健所検査の結果 園児5人の陽性を確認
 - ・ 各医療機関から、園児2人の陽性を確認

3 保健所の対応

- ・ 施設に対し園児、職員の健康状態の報告、感染拡大防止対策（手指消毒の徹底、園児及び職員の検便、施設内の消毒）を指導
- ・ 陽性者、施設への積極的疫学調査の実施
- ・ 対象者の拡大検査を実施

4 市民への周知、啓発

市ホームページやフェイスブック等において下記事項を周知、啓発していく。

(1) 病気について

- ・ 腸管出血性大腸菌（O157など）が口から体内に入ることでおこります。
- ・ 潜伏期間は3～9日で、主症状は下痢・腹痛・血便・発熱などです。
- ・ 抵抗力の弱い乳幼児や高齢者が感染すると、溶血性尿毒症症候群（HUS）になり重症

化することがあります。

(2) 予防対策について

- ・腸管出血性大腸菌に汚染された食品等を介して感染します。また、少ない菌でも発症することがあり、患者の便を介して家族などへ感染が拡大することもあります。
- ・手洗いを励行しましょう。
- ・食材はよく洗い、十分に加熱調理して食べましょう。
- ・下痢や腹痛などの症状がある人は、医療機関を受診しましょう。
- ・症状のある人は、家族と一緒に入浴せず最後に入りましょう。浴槽に入るときには石けんで体を洗ってから入りましょう。また、入浴後は水を抜いて浴槽を洗いましょう。
- ・症状のある人の下着は、塩素系漂白剤でつけ置き消毒し、家族のものとは分けて洗濯しましょう。

※お願い

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、感染者及び感染者家族等に対し個人情報保護をはじめとする、人権保護に特段のご配慮をお願いいたします。

本件に関するお問い合わせ先

保健予防課 感染症対策係

電話 直通 027-220-5779